

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	本厚木駅南口地区第一種市街地再開発事業施設建築物	階数	地上22階、地下2階、塔屋1階
建設地	厚木市旭町一丁目380番	構造	RC造
用途地域	商業地域、防火地域	平均居住人員	652 人
地域区分	6地域	年間使用時間	8,760 時間/年(想定値)
建物用途	病院、集合住宅、工場、等	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2020年9月 予定	評価の実施日	2018年8月20日
敷地面積	2,367 m ²	作成者	㈱アール・アイ・エー東京支社
建築面積	1,877 m ²	確認日	2018年8月20日
延床面積	24,459 m ²	確認者	㈱アール・アイ・エー東京支社



2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)

BEE = 0.8 ★★★★★

2-2 ライフサイクルCO₂(温暖化影響チャート)

☆☆☆☆☆

2-3 大項目の評価(レーダーチャート)

2-4 中項目の評価(バーチャート)

Q のスコア = 2.6

Q1 室内環境

Q1のスコア = 3.0

Q2 サービス性能

Q2のスコア = 2.8

Q3 室外環境(敷地内)

Q3のスコア = 2.0

LR 環境負荷低減性

LR のスコア = 3.1

LR1 エネルギー

LR1のスコア = 3.6

LR2 資源・マテリアル

LR2のスコア = 2.5

LR3 敷地外環境

LR3のスコア = 3.0

3 設計上の配慮事項		その他
総合 高い外皮性能、エネルギー利用の効率化等に重点を置き、駅前施設としての耐震性や部材の耐用年数等の機能性にも配慮のなされた計画としている。		太陽光発電設備を導入し、再生可能エネルギーの積極利用に努めた計画としている。
Q1 室内環境 住宅部について、品確法断熱等性能等級において等級4相当の外気性能を計画し、昼光制御に有効な庇、カーテンレールの設置を計画している。	Q2 サービス性能 品確法劣化対策等級3相当の計画がなされており、使用管材等も更新間隔の長い材料を全般的に使用した建物としている。各階の階高を高めに設定し、更新性に配慮した計画としている。	Q3 室外環境(敷地内) 特になし
LR1 エネルギー 各住戸に潜熱回収型給湯器を採用、節湯水栓、高断熱浴槽を使用するほか、建物全体でLED照明設備を使用する等、設備機器の効率化を図った計画としている。	LR2 資源・マテリアル 消火剤は不活性ガス(窒素)を使用し、汚染物質含有材料の使用を避けた計画がなされている。	LR3 敷地外環境 LCCO ₂ 排出率85%。駐車施設、駐輪施設とも設置義務台数以上を確保している。各住戸にディスプレイを設置するほか、住宅部各フロアにごみ庫を設け、廃棄物処理抑制に重点を置いた計画をしている。

■ CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)
 ■ Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)
 ■ 「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生涯の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと
 ■ 評価対象のライフサイクルCO₂排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される